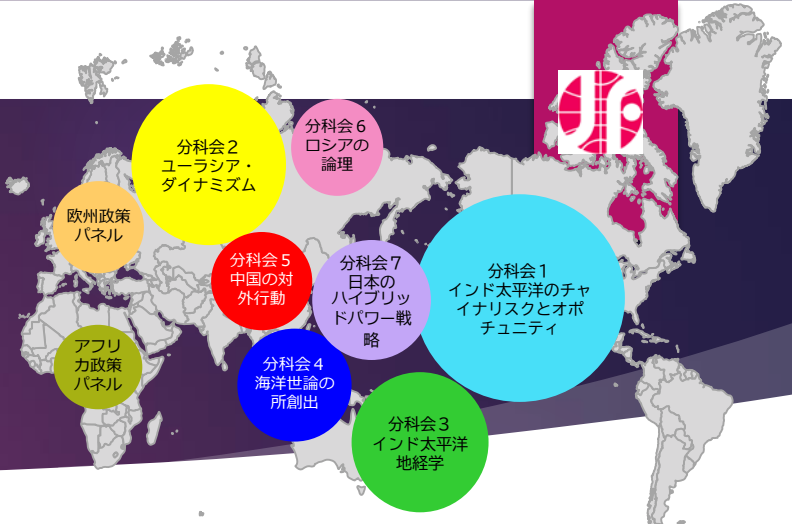


発展型総合事業C 日本国際フォーラム

『多面的グローバリズム』時代の世界の多極化と日本の総合外交戦略（2年度目）

成果1：複層的な世界潮流を踏まえた日本の外交戦略を構想・提言するための知見の集積



▶ 国際秩序の変容を読み解き日本外交をデザインする

- ① 日米両国が中国がもたらす機会とリスクを考えるうえで、死活的に重要な政策課題として、**1)自由で開かれたルールを基盤とした国際秩序の維持、2)経済安全保障、3)台湾、4)民主主義や基本的人権の促進**、を抽出し、日米両政府に対する政策提言を作成
- ② **地政学における接続性・連結性の観点**から、インド太平洋を二極的な世界構造の狭間としてでなくグローバル・ガバナンスの多層的・重層的・多角的な構造としてとらえ、米国、欧州、中国、中央アジア、コーカサス諸国、ウクライナ、ロシアといった国・地域と通信インフラ、コロナ禍といった 이슈からの視点でユーラシア地政学を分析
- ③ インド太平洋地域における地経学的手段の行使をめぐり、欧州・中国・インド太平洋諸国における行使の事例、また経済制裁・経済安全保障・人の移動の地経学的手段としての有効性について分析。その上で、**地理的近接性のみならず、制度的近似性（価値観、法など）が分析枠組みに有効**との仮説を導出し、1) どの国が、2) 何の目的で、3) どの国、どの制度・体制に対して、4) いかなる経済手段をとって、5) どのような行動をとったか、について地経学的手段を類型化。
- ④ 我が国及び国際社会にとって望ましい海洋空間の創出を模索すべく、**海洋エネルギー、海洋における食のトレーサビリティ、気候変動と海洋安全保障の抱える海洋のトリレンマ**、というテーマをめぐり、日本の果たしうる役割を分析・検討

▶ 主要アクターの行動原理や最新動向を理解し、日本の外交戦略の実効性を高める

- ① 中国の対外行動を観察し理解するため、**1) 政策課題の設定、2) 政策形成、3) 政策決定、4) 政策実施、5) 政策評価の5つの段階が循環する**という分析枠組みを用いて、政策過程の構造と変化の可視化を目指す
- ② **プーチン主義の行動様式に対する内政・外交・経済の観点からの動態的な分析と非公式慣行などロシア社会特有の行動様式の解明**に取り組む
- ③ **欧州政策パネル、アフリカ政策パネル**の開催を通じた欧州・アフリカを考えるうえでの最新の論点を導出
- ④ **国内・国際情勢全般**の最新動向を把握する合同ヒアリングを実施

▶ 日本の潜在的国力を最大化し、国際プレゼンスを高める方法を探求する

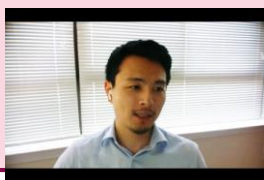
軍事・経済のみならず、文化的なものも含めた「ハイブリッドパワー」が必要だとの認識のもと、日本が行使しうる「ハイブリッドパワー」を具体化すべく、SDGsを通じた日本外交の発信のあり方、自由主義国際秩序をめぐる現状維持陣営と現状打破陣営の間に展開される高度政治闘争「国際秩序戦」における日本のソフトパワーのあり方、地球規模課題解決における日本外交の役割、について分析・検討

『多元的グローバリズム』時代の世界の多極化と日本の総合外交戦略

成果2：発信力のあるオピニオンリーダーとシンクタンクの人材育成をめざす 人材育成プログラムの実施

JFIRライジングスタープログラム（JRSP）

1. 今年度は、1名のJRSPメンバーがメンバーに昇格、5名がJRSPメンバーとして加入。
 - ✓ それぞれが分科会に所属し、主査及びメンバーの指導を受けながら、研究会／国際シンポジウム・ワークショップでの報告、論考の作成を実施。
 - ✓ JRSPメンバーの1名は、リサーチアシスタント（RA）から昇格。
 - ✓ JRSPメンバーとRAの兼任者によるJRSPメンバーとしての役割の強化
2. 分科会には所属せず、「日本国際フォーラム特別研究員」の肩書を付与し、日本国際フォーラムまたは他機関の主催する国際会議への出席や論考の発表を支援



リサーチアシスタント

▶今年度はさらなる若手人材の育成のため、学部生もRAとして採用。分科会の日程調整、開催要領の作成、主査及びメンバーへの連絡、議事録の作成、セミナー・シンポジウムの案内作成を当フォーラム研究員が指導・指示し、戦力として活躍。

▶プログラム・オフィサーとしての基礎的なノウハウを伝授することで、将来シンクタンクで通用する人材を育成し、シンクタンクの底上げを図るとともに、JRSPメンバーとしての昇格という事例を生み出し、研究者への道筋も示した。

発展型総合事業C 日本国際フォーラム

『多元的グローバリズム』時代の世界の多極化と日本の総合外交戦略

特徴3：多様な情報を発信する広報体制

▶ Website等における情報発信

- ・本プロジェクトの特設ページの開設
- ・日本語及び英語版メールマガジンの配信（約1万人に配信）
- ・YouTube上に「日本国際フォーラムチャンネル」を創設し、各種会合、記者会見の動画の配信
- ・季刊誌「会報」の発行及び配布（毎号3000部印刷）
- ・啓発的な書籍の刊行（今年度は『ユーラシアダイナミズムと日本』（仮）を刊行予定）を通じた、全世代に向けた情報提供



▶ 当フォーラムメンバー等による情報発信

- ・Facebookなどを通じた研究報告やセミナーなどの紹介
- ・学会や大学及び機関などにおける告知活動

▶ その他 企業経営者等への最新の国際情勢理解促進に向けたアカデミックな貢献

「国際政経懇話会」や「外交円卓懇談会」と題する当方主催の勉強会を通じた各種「コーチング」の実施
「JFIR Policy Report」の発行

特徴4：諸外国シンクタンクとの連携強化及び先進的専門家等との人的ネットワークの拡大

▶ 同じ方向性を持つシンクタンク等との連携

- ・カーネギー国際平和財団（共同研究）
- ・アメリカン・エンタープライズ研究所（共同研究）
- ・欧州政策研究所（共同研究）
- ・国際関係戦略研究所（共同研究）
- ・独国際安全保障問題研究所（共同研究）
- ・アサン政策研究所
- ・欧州外交評議会
- ・インド・オブザーバー・リサーチ財団
- ・上海時代経済発展研究院上海海洋フォーラム
- ・上海外国語大学日本研究センター
- ・韓国国立外交院
- ・上海国際問題研究院
- ・上海市日本学会
- ・インドネシア戦略国際問題研究所
- ・シンガポール南洋理工大学ラジャラトナム国際学院



▶ 先進的専門家等との人的交流

海外側：ジェームズ・ショフ、ザック・クーパー、エイミー・シーライト、スコット・ハロルド、カレル・ラノー、パスカル・ボニファス、パラグ・カンナ、ヴォロディミル・オフルィズコ（ウクライナ元外務大臣）、ドミトリ・ストレリツォフ、ガブリエレ・ヴィセンティン、張林峰他
日本側：落合陽一、北村滋、松本佐保、大西康雄、高瀬淳一、広瀬公巳他